

TEAM

地域 エコ アクション ミーティング



最前線

～その後の脱温暖化物語～

14町づくり脱温暖化やすうら

子どもたちを巻き込んだ環境学習を展開

アマモがはぐくむ豊じょうの海を伝える

町づくり脱温暖化やすうらは、ごみ減量を入り口に脱温暖化をめざしたライフスタイルづくりを推進することを目的に平成十九年五月より活動をスタートさせた。安浦・自然と環境を育む会、公衛協、企業、推進員、市民センターなどのメンバーで構成されて

いる。生ごみ堆肥化の活用促進や地元の野菜を活用したエコクッキング教室、河川のクリーン運動など活動は多岐にわたるが、今般は学社融合を目指す子どもたちを巻き込んだ水辺教室や海辺教室に力を入れている様子を紹介する。



船から牡蠣の生態を観察する子どもたち

九月二十六日には、呉市立安浦中学校一・二年生のパソコン部十五名と一緒に安浦の海を観察し、環境の変化を調べた。安浦漁協「若部海(わかぶかい)」のメンバーや呉市役所水産振興課の協力を得て、子どもたちは漁船に乗り込み、アマモの群生地や牡蠣いかだを現場で観察しながら生態などを学習した。

漁師の方から、海水温の上昇で熱帯・暖海域のナルトビエイなどの魚種が増え、牡蠣の稚貝が悪影響を受けている現状や、アマモや牡蠣の殻が多くの二酸化炭素を吸収していることを教わった。また、三津口湾に瀬戸内海でナンバードンと言われているアマモが群生している様子を目の当たりにし、安浦のすばらしい豊じょうの海を再認識し、最後に全員で海岸の清掃活動を行った。

地球温暖化防止活動推進員の池田敏行さんは「今後、子どもたちと一緒に、この安浦の豊かな自然を財産として伝えていきたい。そして、温暖化と

海の関係を知り、我々と一緒に地域の人たちに情報を伝えて欲しい」と語られた。子どもたちは、今後パソコン部の活動のなかで、HPやブログを活用した情報発信を検討している。学社融合を目指したさらなる活動が楽しみだ。

12 UE-net

組織名：UE-net (結いネット)
代表者：広島女学院大学 河上 園佳
活動：県内の環境保全促進を目指す
事務局：中国環境パートナーシップオフィス

未来をつくる学生のエコと心

地域活動を展開する中で、もっと若い力を呼び込めないかと考えたことはないだろうか。学生も自らの成長と未来を考え、活躍の場を探している。このシリーズでは、環境分野で積極的に活動する学生グループを紹介し、地域と学生のコミュニティ形成のきっかけを提供する。

シリーズ12回目は、これまでのまとめとして大学環境ネットワーク「UE-net」を再び取材しました。前回の取材から約2年、これからの未来を担っている学生のエコと心、今後のビジョンについて聞きました。

■ 広がるUE-netの環境活動

結成4年目の現在、オリジナル教材を使用した出前講座やイベントへのブース出店など、

積極的に活動が続ける場へ メニュー充実と体制づくりを図る

たくさんの事業に取り組み、環境保全の促進、活動PRと、自身の成長につなげています。

中でも、UE-netで作成した「温暖化」「ごみ問題」「異常気象」をそれぞれテーマとした3作の紙芝居を中心とした環境出前講座は、広島市内を中心に小学校や公民館で多数実施しています。また、ピオトープや川での生物観察会も実施を始め、活動メニューの充実と開催場所にあわせて近隣のUE-netメンバーが中心となり、能動的に動ける体制づくりを図っています。

■ 学生の強みを生かした未来の創造

大学生対象の学生視点の活動も行っており、10月1日から開始されるレジ袋有料化に向けて、



オリジナル教材を使用した出前講座で環境学習を実施

学生が学内からマイバッグ持参をスタートで

きるよう、学生がデザインする持ち歩きやすい(若い人が持ちたいと思う)マイバッグの作成配布を企画実践しています。

私たち学生の強みは、時間や活動の機会が豊富で、やろうと思ったら何でも挑戦できること。所属の団体や学生が積極的に活動を展開し続けられる場「UE-net」であり続ける努力と活動を継続していきます。

■ おわりに

未来を考え、自分たちにできることを考え、活動を展開しているさまざまな学生団体を紹介してきました。今後、学生の活動が未来のエコへ大きく貢献していくことを願います。(このシリーズ終わり) (地域支援課 馬場田真一)

瀬戸内海に関する衛生団体合同研修会

北九州市で開催

洞海湾浄化やモデル都市の事例を学ぶ

情報交流で今後の活動に意気込み

生団体から百十八人が参集した。この研修会は、一堂に会して情報交流を行うことで、

小学生を主対象とした水辺・海辺教室の企画運営や「フリードマイレージ」をテーマとした学習活動に取り組んでいる「町づくり脱温暖化やすうら」が表彰された。

二題目は、北九州市港湾空港局総務経営課水際係長の田口智康氏が、ムラサキガイを使った洞海湾の環境修復活動の内容について紹介。講演後は、参加者からたくさん

の質問や感想が寄せられ、熱

く、二題のレリー講演

交流を図ることで、今後の環

境保全活動に生かすことを目的に開催された。

一日目は、まず、環境保全活動において多大な成果を上げた一人三団体の功績を称え、感謝状が授与された。広島県からは、公衛協と連携し、

を実施。一題目は、北九州市立大学国際環境工学部准教授の上田直子氏が、かつて「死の海」と言われたほど環境汚染がひどかった洞海湾の様子や環境修復に向けた取り組みとその成果について話された。

心な意見交換が行われた。一日目の最後は、体験交流として、各府県市から四団体の代表者が実践活動の報告を行った。「町づくり脱温暖



4団体の代表者による実践活動報告

アスベスト分析 (当会では6種類の分析が可能になりました)

「健康被害拡大で無警戒の石綿を対象とした法律の見直し」

平成20年2月に厚生労働省からアスベスト6種類分析の徹底に関する通達が出されました。これにより、アスベスト分析においては、従来の3種類(アモサイト、クリソタイル、クロシドライト)に新たに3種類(アクチノライト、アンソフィライト、トレモライト)を加えた6種類の分析が必要になります。

※ご要望により試料採取の対応を行います。詳細は、お気軽にお問い合わせください。

